

Note Book

昭和十八年度

東京商科大学豫科

ア式蹴球部

練習日誌

1939

昭和18年3月7日(日曜日)

今日午後7時、専門部内庭球場に集合。確認し、
出席をとり。現在ある両大蹴球部の位置は、各人が
勿論充分脳裡に刻み込んでいるが、各人各格
の考え方は異なる。尚大蹴球部は二部から一部へ
切り立てゆく目標は一つである。

遊ぶときにも一語に遊ぶ。合宿に於ける練習は相当
なものである。これを知らぬと、その目的が、合宿の以上、上
記の目的は当然のものと去は物ばなぬ。併し当然の目的
如何に、予に難きかを知るとき、かけ右の予の重要さを予
せしむるべき。

現在の豫科は二、三年の活発な日々。皆夫々一年、二年と
蹴球部生活を通じて来ているが、精神的には、一歩
と進んでいると確信する。かゝるに各人と知り合はせ、
和を得るべきである。合宿中は、自己を隠さず、有
りつゝの姿を暴露し置く。

豫科参加者

永倉、奥村、加藤、川端、(佐藤、高柳、床富、竹山、西浦、岡本、松岡) } 不参加

3月8日(月) 午前、雪、午後、晴、寒気厳し。

起床後、軽い体操

午前の練習 (予科グラウンドにて)

1. 体操 2. テニシング (グラウンドにて) 3. スキー

4 球送り 5. サイドキック 6. ハンディング 7. スローイング
午後 (本科グラウンド)

1. 体操 2. ランニング 3. スローイング 4. サイドキック
5. ハンディング 6. ドリブルボール 7. 体操

寒気がするところから、最初走つて余り動かしなかつた。
トレーニングを大目な振り出した効果もよく、最初から進
むのがよく空いた。最初も大切である。その意気充分
とはなす。人数が少いと元気があつた。ふんて弱
い。人数の少くはば少く、程々の走りがつた。人
でいふところから。以下の時走つては外の足下をサア
サア流した。それ外に押し流すとする。少し走るとは
最後迄、ふんて留まり、その限界まで動いてはあつた。
これから豫科却卒の使命は実に重大である。
上級生に限らず下級生も大いに自覚すべきである。

岡本の件、大いに自覚も反省も、今大反省を下
すから。現在、努力の足りなかつた。下級生は皆
隠す、隠す、隠す、隠す。隠す。隠す。隠す。隠す。

3月9日(木) 曇 後晴

朝 谷保天神道 ランニング 行9分 帰8分

午前 1) 体操 2) ランニング (グラウンド) 3) ショット
4) ドリブル 三回-軽く 二回 + サック 二回 スピード
5) サイドキック 6) ショートキック 7) ストップキック
8) 三角鬼 9) リレー 10) ランニング
午後 1) 体操 2) ランニング (グラウンド) 3) ダブル
4) ショット 5) ドリブル 6) サイドキック スタート
7) ストップキック 8) サークルハット 9) ミットのサークルハット
10) ランニング

二日目、皆相替身作が痛み出したやうだ。総て来た一合宿の本格
に入らぬのた。むとむとへばるのた。これ位で「こ
たれは居る此なの。」我々は豫科の上級生だ。この合宿
を通じて技術的にも精神的にも新に鍛え直さる(奥村)

3月10日(水) 晴 風強し

朝 本科校舎前に於て体操

午前 (1) 体操 (2) ランニング (3) スタート、ダッシュ
(4) Shadow (5) ドリブル 三回 (6) Back付ドリブル
(7) Short-kick (8) Heading (9) Stopping
(10) Long-kick (11) 前後のダッシュ、左右のダッシュ
(12) ランニング

- 午後 (1) 体操 (2) ランニング (3) Start-dash
 (4) Shadow (5) ドリブル (6) Back付ドリブル
 (7) Short-kick (8) Circle-stopping
 (9) Long-pass (10) ウォーキー-kick (11) Long-kick
 (12) Start-dash (13) ランニング

ど池に三日目の練習を終った。足の痛みも今の絶頂
 明日は4日目の合宿練習の山むらさ。とにかく指性には
 やる練習に一息入るかへは明日から亦少しづつ
 分けてやる行き度... 何となくこの合宿で少しづつ
 心に耐える自信と... 小指の怪我を治して見度...
 (川端記)

3月11日(木) 快晴 割合(7)シ(

朝 ランニング 約20分

- 午前 1) 体操 2) ランニング 3) ドリブル
 4) shadow 5) ドリブル 6) short-kick
 7) running-pass 8) long-kick
 午後 1) 体操 2) ランニング 3) ドリブル
 4) shadow 5) ドリブル 6) short-kick
 7) receive-and-pass 8) long-kick
 9) running-pass 10) ランニング
 11) 体操

体の痛みも大分和らいた。午前は見苦しい練習
 をやってしまった。しかし午後は気持ち良かった。
 けれど大分ノビた。ショートキックは毎日
 怒鳴られてる。頑張れ。
 (カトウ)

3月12日(金) 快晴

朝 体操

- 午前 1) 体操 2) ランニング 3) スタートダッシュ
 4) ショートキック 5) ドリブル 2回 6) ハットトリック競合
 7) ドツゲンキック 8) ショートキック 9) ランニングパス
 10) ロングキック
 午後 練習休ミ

西浦は兄さんが死んだので直に帰郷³。
 今日の練習は長く日が照って暑く、苦しい練習で
 あつた。午後は休みで外出を許可された。ここで
 鋭気を養って明日からは新しい意気で始める。
 今日迄の五日間は実に長く辛く、日の練習連続で
 あつたが、又考へればもう半ばは過ぎてしまつた
 のである。あとの五日も瞬くの中に経ってしまった
 あらう。この短き期間を有効に一日一日を充実させて
 やりたい。
 (高柳)

3月13日(土) 快晴 夜曇(小雨)

朝 ランニング 約20分

- 午前 (1) 体操 (2) running (3) lach
 (4) shadow (5) dribble (6) short-kick
 (7) running-pass (8) shooting
 (9) running.

- 午後 (1) 体操 (2) running (3) dash
 (4) shadow (5) dribble (6) short-kick
 (7) running-pass (8) shooting
 (9) running. (10) 体操

昨日半日の体操は皆大分英気が奮った。朝は不日気が少し冷える。以上皆元気があつた。合宿六日目。もう後半に入つた。足の調子が大分壞しつゝと思ふと全体的の疲労を覚える。僕は朝の running は全く目もくらむ程足の疲労を覚える。

雨の土曜 ground は腫れ出しつゝ。皆汗ばつた。夏服の類は汗ばつた。とこの fact の練習は。普通の走りよりは先ず短距離の練習は短距離の走り。とこの fact は短距離の走り。唯短距離と fact とを比べると昨日、今日と漸く短距離の走り。とこの fact は短距離の走り。

視覚の先ずが fact である (序)

3月14日(日) 快晴

朝 各科のドリフトにて体操

- 午前 (1) 体操 (2) running (3) 水撒き
 午後 (1) 体操 (2) running (3) dash
 (4) dribbling (5) dodging (6) short kick
 (7) long kick (8) running pass (9) shooting
 (10) stopping (11) dash (turning) (12) running

總体的に疲労が感じられる。午後の水撒きは練習よりも入つた。常日頃動かさぬ筋肉を動かしたおかげで大分だるかつた。が皆が一歩で、一つの試練にぶつた。これは大いに結構である。自然の偉大を感じると共に、又人間の協力の強さをも感ずる次第である。

ドリフトのコンテントも悪く、厚い動作はくもあつた。それは各自の力づくで打破すべきだ。

此の合宿中に、一つは自分自身の特異な技を修得し得た。多くを望む勿れ。而して一つを合得せよ。直ちに進んで行くべきだ。後三日が尽。今日の仕事はこれからしつかりやり、やり抜く。(永念)

3月15日(月) 曇後晴

朝 ランニング 25分

- 午前
- 1) 体操
 - 2) ランニング
 - 3) グラフ2
 - 4) ドリブル
 - 5) ドツゲン
 - 6) 極小円
 - 7) 稍大円K
 - 8) 極大円K
 - (K2, フレイト)
 - 9) 頭射
 - 10) 射蹴
 - 11) グラフ2
- 午後
- 1) 体操
 - 2) ランニング
 - 3) グラフ2
 - 4) ドリブル
 - (本朝のラウト)
 - 5) ドツゲン
 - 6) 極小円K
 - 7) 稍大円K
 - 8) 極大円K (H2S-フレイト)
 - 9) ヘドの競合
- 専門部) ~~以下~~ グラフ2 32分
- 10) V2-テング
 - 11) グラフ2
 - 12) ランニング

今日の午後山本(9時)さんが来られて一諸に練習した。早いもので合宿も後二日に迫り終つた。筋肉の痛みも全身的に疲弊したやうな氣かして随性に流れやうとする所が見える。痛さをも疲弊をも肉体的のそれよりも心理的のそれの方が遙に危険である。痛いとも疲れたとも考へることは最悪のことだ。何もないと考へておればどうにかなるのだ。(奥村)

3月16日(火) 晴 終夜風烈い

朝 体操

- 午前
- 1) 体操
 - 2) ランニング
 - 3) グラフ2
 - 4) ドリブル
 - 5) ドツゲン
 - 6) ショートキック(大)
 - 7) ショートキック(大)
 - 8) ロングキック
 - 9) 蹴り合ヒ
 - 10) ランニング
 - 11) 体操
- 午後
- 1) 体操
 - 2) ランニング
 - 3) グラフ2
 - 4) ドリブル
 - 5) ドツゲン
 - 6) ショートキック(大)
 - 7) 同(大)
 - 8) 三角パス
 - 9) receive and pass
 - 10) direct kick
 - 11) ランパス
 - 12) cross cross
 - 13) ランニング 40分

並じに谷保天神へお礼参り
此れこそ今回、合宿練習を終る。
種々の都合に依り一日操に於て合宿を終る事になつたが、その精神を存して来る練習から往練習をすべしとの訓諭を言ふ。
毎度の事下ら大分ダラシク練習をやつた日もあるが割合張切つた九日を送りこゝ出来た。二日間休んで又張切らう。

(加藤)

3月17日 (水) 晴 風強し

昨日と以て合宿練習も終了。今日は何かほろほろのんびりした。今度の練習は20日から、それ迄先かへ休養をみよ。昨日まで練習のため、充分休養して20日より又新しい一歩を踏み出さう。今度の合宿は可成りつらかったが、苦しさに対する自信がついた採る気がする。その裏で意義のある合宿であったと思ふ。リーグ戦もあと一月で終安楽としてはおらね。要は20日から。(川端記)

3月20日 (木) 小雨 於専向部グラウンド

- 1.) ground 二周
- 2.) stop and pass
- 3.) short kick
- 4.) circle kick, pass stop and pass
- 5.) direct
- 6.) running pass
- 7.) ground 一周

今日は後科のグラウンドでやる予定であったが変更されて専向部で行ふことになった。三日の休みの後色々故障のため集り悪く、練習参加者は僅かの9人であった。(高柳)

3月21日 (金) 曇 小雨 模範

- 1.) ground 二周
- 2.) start dash
- 3.) dribble; free 二回, defence part 二回
- 4.) short kick; small circle, large circle
- 5.) circle kick; stop and pass direct
- 6.) running pass 二回 crisscross 二回
- 7.) forward's shooting
- 8.) back's kick
- 9.) 前後 dash 左右 dash
- 10.) ground 二周

一昨日より続いた春雨のため、合宿中擋まされて来た砂塵より解放されたが、グラウンドの凹凸がそのまま固ってしまったために、球が ~~粗~~ irregular bound して困った。

リーグ戦開始迄あと二十数日、益々元氣を持って練習せねばならぬ。(高柳)

3月22日(月) 小雨

- 1.) Running (ground = 回) 2.) Start Dash 3.) Dribble (free = 回; defence 付 = 回)
- 4.) Short kick (small circle and large circle) 5.) Circle Kick (stop and pass; direct)
- 6.) Running Pass. = 回 7.) Heading shoot (Forwards) Attacking (Backs) 7.) Shooting (only Forwards)
- 8.) Heading Clearing (only Backs) 9.) Back's kick.
- 10.) Dash (long) 11.) Running (ground = 回)

昨日の練習を初める。練習と云つてもその名に恥つかし… 練習だ。諸兄の諸動作にだんだんと流弊の色が見えるを見るにつけ、思ふ存分の練習の出来を… 自命を不甲斐なく思ふ。愈々快戦の幕は切つて持て来りである。一刻も遅く見送して諸兄と共に暴れた。練習の出来を… のを記さると共に 諸兄の御奮勵に感謝して筆を擱し。(4/27)

3月23日(火) 晴

- 1.) 体操; ground = 回 2.) Start Dash. 3.) Dribble (free = 回, defence 付 = 回)
- 4.) Short kick (small and large circle) 5.) Circle Kick (stop and pass; direct) 6.) Running Pass = 回. 6.) Shooting (only forwards)
- 7.) Backs 概念 8.) Heading Clearing (only Backs) 9.) Heading Shoot (forwards)
- 10.) Long Dash 11.) ground = 回.

14時定刻に集会。専任部入試の爲練習開始を以て特にお話し。此の途の途

(振藤豆将) リーグ戦に… の話有り。大要を次に述べん。

Member の法定 (略译略); 現下は在竹の高大蹴球部の位置。並に之に南の武之部の覚悟。注意; 研究への昂揚。等。リーグ戦と後一月足すの中は迎へるべき。各人各人考へ有。覚悟有りと… 戦ひ抜く。勝つた。勝つた。若し… 行かぬと情極的なものなけり。到底一部復の時望は… 積極的にやつて行かぬと… 思ふ。今日の練習は全隊後に見せる元気有り。更に一層覚悟を張り上げ。Fight 的練習をしよう。2+3=80 の算術を成すは事々戦ひに現出しておはるか。(4/27)

3月24日(水) 雨

- 1.) 体操 2.) 前進 Running 3.) Short-kick
- 4.) Long-kick 5.) Running-pass 6.) Shooting
- 7.) Back's kick 8.) Dash 9.) 合宿所 Running.

昨日、リーグ戦の詳細が取極められると南には我々は。余りにも月日の経つのが早く… 驚く。併し驚いて計り居る。此の際各人は痛烈な自己反省をしなければと思ふ。従来自己といふものが果に消化されて居たか? 不消化の過ぎを背負つて今迄やって来たか? 然りとせば、この消化を如何にして消化するか。今後の各人の覚悟一つで成功不成に終るのである。

我々の争闘は既に一部から一部へ陥落した時から既に始つて居る。その曾と左の度東選手権大会あり而して南高戦があった。それ前番に於ては危ぶむべき… 予定の通り…

果を収め得た。後者に於ては、商大蹴球部の一大特長を、
本種予選の真に一札と云ふ。浦高に当り結果輝かぬ
勝利を収め得た。我々はこの試練と云ふ。或は
自信を得た。信ずる。即ちその自信のや決して自信であ
つては云ふ。自信と自信は統一重なるから。その旨のけぢめを
は判然とせしめねば云ふ。

今方のリーグ戦は現況の商大蹴球部と云ふは、何と云
ても荊棘の道であると思ふ。部員少い。少い上に負傷者か
多い。何時誰か倒れか予想出来ぬ。SubもRegular
もありは少い。此の裏を充分かみわけ。会員は一日一日の
練習に満足できた自信を充足出来る様にしている。貴ひな。
現在に於ては"満足できた"以上の練習をせねば云ふと云
はれるかも知れぬ。少くとも、自信の満足できた練習も
出来る。それ以上を望む可は無理である。

一日の練習に克ち優つた自信を以て出れば貴ひ。
日を為るに足らぬ。後何日あると思ふ。何年かも足りない。
い日数で初め足らぬ。人数が二部優勝を以て大困難
克服し其れ遂げ人には。如何に部員が団結に団結を重ん
じても望む可いと思ふ。今に自信か。今の商大蹴
球部の此の何の一端を支持する者である。知つた時には。
心底から湧然と何れか強いつか湧り立つのか感じ
らぬ。一日一日をピラミッドを築いて行くのか我々の何れか。
ピラミッドの尖端に何かあるか分らぬ。併しその分らぬも
を求めて。努力に外れねば云ふ。 (5.平)

3月25日(木) 曇り時々晴

- 1) 体操
- 2) グラウンド一周
- 3) Drizzle (Free 2回, Defense)
- 4) short-kick
- 5) 三角pass
- 6) long-kick
- 7) running pass
- 8) shooting
- 9) dribble-shooting
- 10) Backo, 試合
- 11) Formation (Back+V)

昨日考へたことは、昨日のやりにグラウンドコンティンションの要
い時は殊に身体の平均が大切であると思ふ。身体の
平均をよく保つて置いて早くボールに寄れば無理な姿
勢にならぬから軽快こともない。然るもキックを無理な方
角へ無理な姿勢で蹴ることは何の効果もないし足
を餘に大振に振るのも決してよく蹴れない。小振に
ピツと當てるのが一番よいやうである。

これは雨の日のよく気が付いたことである。コンティン
ションの時でも身体の平均に氣を付けねばもつとよいキック
が出来ぬし、球の処理も早く出来るのではないかと
思ふ。即要するにランニングの問題である。
然し以上のことは一般の場合で急を要する場合(Backo
突きのリキック)とかFWのシュート)には当てないやう
である。

今日今年度初めてのFormationを行った。~~練習~~
練習の初め来たと思ふ感じである。メンバーも大作揃
た。さあこれからすべてを勝負に捧げやう(奥村)

3月26日(金) 晴風アリ.

- 1) 体操
- 2) グランド一周
- 3) トリブル 4回
- 4) short-kick
- 5) 三角パス
- 6) receive-and-pass.
- 7) place-kick
- 8) direct-kick
- 9) running-pass 二回
- 10) shooting
- 11) dribble-and-shoot
- 12) バックの蹴り台
- 13) headのclearing
- 14) formation.
- 15) place-kick
- 16) running (グランド半周)

本科一年、今日ヨリ野苦ニテ缺席。
 今日カウ愈々小平、グランドデヤルコトニナリ。
 今迄、落着カナイ気分ヲ一掃シ。シカレグランド
 八、専門部ト同様ニ極メテ悪イ。
 本一サハ歸ソテクレバ、ソノマ、リーグ戦ニ向テ
 突進ダ。ソノ日程モ決定シテ、ハツキリト目標
 ガ定マツテ感ガスル。ソレニモ抱ラス怒
 鳴ラレテナルガ。決シテ長イ間テハナイソモリダ。
 腹、調子モ相不変不調ダ。シカレソノメニ
 意氣消鎮シテハナイ。ソノヤウニ見エルカモレ
 ナイガ、自分テハソウデハナイ。

3月27日 ~~休~~ } 腹を壊したため此の二日間
 28日 } 練習日誌を止め置いていたことは
 誠に申訳がたい。

3月29日(月)、晴、北風強シ。

- 1) 体操
- 2) ground一周
- 3) フリブル free 2回
- バック付1回
- 4) short-kick
- 5) long-kick
- 6) running-pass 3回
- 7) shooting
- 8) dribble-shoot
- 9) Backの蹴り台
- 10) バックのclearing 一回
- 11) formation
- 12) ground一周

本日折からの北風に砂塵を捲き上げ、ひどい condition
 であつたが、一般に元気があつたと思ひ。農さん不乾の馬
 例の二一ノを声をきかぬのか一沫のさびしさであつた。
 是に俺達は、一度俺達の部室迄のあり方を考へて見つけ
 なければぬ。一汗にみみ、埃にみみ、練習する俺達は
 何と云ふかはばらぬが、此蹴球部の練習場の土が、大
 江へ降りたせいで染み、臭い臭い土の香りに似て、太陽
 の熱を直ちに吸収して、快哉を叫ぶに止まり得ざるは
 恐らくは業しいものである。併しこれは平和な昔の通部とい
 はすべからなかつた。現今の国家状況を考へれば、視
 点日本は今、喰ひか喰ひたかの未曾有の難局に立つてゐる。
 此通部部室を元の如き如きにして置くは、寧ろ何十
 の時向をさして、食料の取らぬ勤勞奉仕でもして居るべき
 如きである。母方の俺達に要するものは強いていへば
 である。俺達の部室にはそれ程の多量に、字に記して置く
 強いていへば、決して他人の手で作らぬものである。

3月31日(水) 小雨模範、曇り。

- 1.) 体操, ground一周
- 2.) Drizzle (free = 1回, Defence 1回)
- 3.) Short Kick (small circle and large circle.)
- 4.) Circle Kick (stop and pass, direct)
- 5.) Running Pass (3回)
- 6.) Shooting (single, Drizzle, Pass 1 = 2回, 全部計)
- 7.) Back's Kick
- 8.) Formation
- 9.) Running (一周)

本日14時半の習摩湖にて練習を初む。

荒川、余原両兄 Formationの時に姿を現す。練習を見たときには、
 "今日はほんどか元気がないね。と云ふ。急所に觸れたかぬかはつとす。
 昨日の後は練習試合と云ふ。全宿以来の我々の更力を現す。
 対文理大戦があるのだ。猛省を提す。甘ん気持を捨てる。
 愈々明日、全負拵、つて練習が本来る。樂(みた)。

(4)小記)

4月1日(木) 曇。

1. 体操
2. running
3. ドリブル 一回
4. Back Kick 1回
5. short kick. (= 復々合4回)
6. 長蹴
7. ランニングパス
8. Backの蹴合
9. clearing
10. formation
11. 懸垂

小雨のふりそよふ。うす寒の天気は終ぬす。F.W.も Backも昨日より元氣ふし。

自命は一月間の迷走末復 groundに於つて、遠くから二、三回姿の部員姿と見、何れも胸が
 ぬくふつとす。目かろみそなふた。ふらふらとふらふら
 の感ぬぬぬと感ぬぬぬ。然し全部か全部
 自命の迷ぬかぬかほぬぬぬ ぬぬぬも、未だ混濁
 い膳未現在である。色々考へぬぬぬ。未だ此は
 ふらふら 後々書す。

若くは 缺席のPおわぬ。

4月2日(金)。

1. 体操
2. running, dash
3. ドリブル
4. short kick
5. long Kick
6. running pass
7. Backの蹴合
8. clearing
9. Formation

4月10日(土)

晴

- 1. 体操
- 2. グランド一周
- 3. ドリブル
- 4. ショートキック
- 5. ロングキック
- 6. 2対3
- 7. フリーキック
- 8. バックの蹴合
- 9. フォーメーション

4月11日(日)

晴

- 1) 体操
- 2) グランド一周
- 3) dribble
- 4) short-kick
- 5) kick-and-pass
- 6) direct-kick
- 6) 2対3
- 7) shooting
- 8) dribble-shoot
- 9) バックの蹴合
- 10) sliding-tackle
- 11) formation.

連日の疲労漸く現れ、動き鈍し。
 山本先輩来られ、一諸にボールを蹴られた。
 昨日の報門團入團式に於ける有志演
 説中、我々の耳に入らねばしもの二三あり。

他の部の者に対するのセパレ化はかまはない。
 しかし、部員同志に意志の流通を缺くた
 らぬ大問題だ。予科部員の同は一概應
 友好的のも知れぬ。しかし親友の同柄
 ではない。グラウンドの上に於ける各人の同の
 闘志が、真剣さが、グラウンド以外の生活に
 於ける各人の交友関係に見られる。
 グラウンドの上の昔には堪へられぬ。いさ

苦しくも張りがある。純粹な気持でやる
 行き易い。しかしグラウンド以外の生活で部
 に頼るべきしものがないとなつたら、悲惨だ。
 気がつかずには、或は、知つてゐるも表面上
 友好的であつても、その関係は永続しない。
 いや返つて、このやうな我々の生活の支柱と
 してゐる部生活の中では、他の単なる交友
 関係が自然に消滅するものに對し、予
 の上には悪化させ、危険がある。我々の予
 科三は今迄部生活と他の生活との調和
 に肉し餘りに無關心過ぎた。そして、
 今迄の部生活を ~~一部~~ に波瀾がな
 かつたのは、決してそれが正しい、適當な、
 ものであつた為であつた。單に樂天的
 な、或は無知な予科三共有の性格
 が ~~自己中心~~ 各人の自己中心主義的な都
 合の良さに乗じて、各人の手を握らせて
 ゐるに過ぎない。誰かが、他の生活に
 目を向け、困惑する際には、他の予
 科三は全く無力だ。迷ふ者は歸道
 を必ず忘れて、いや故意に背を向け
 て一直線に他の生活に走つてしまふ。
 残つた者は彼を『自己の生活に徹底
 出来ぬ者』として嘲笑む。

より直ちに新入生が入つて来る。敏感な者は俺達の同柄事に対して、意識的ではないにしても、必ず不満を持つに相違ない。何時俺達予科三は彼等と引張つて行く能力があるのだろうか。

(加藤)

4月12日(月) 晨 ジャバ軟シ

1. 竹槍
2. running
3. 1/2 mile 2回
4. short kick
5. long kick
6. 2:3
7. shooting
8. dribble shoot
9. clearing

現在の蹴球部の練習をジャバで見せて、我々の部が二部を落してあるの姿を、理由が何かは直観的に感じ取れる気がする。特に自分も今の境遇から豫科生の姿を見せると、一層強く感ぜられる。これは僅一人の感じではあるが、確か我々の今の部は、物理的・意志の強固さから次第に缺けて来ている。若人は表面上は「俺は蹴球部だ」と安易に他の部員と妥協しているんじゃないだろうか。以下自分の感じを顧みず暴言を吐く。

本科生はよく知らず、予科生を見れば、加藤も言っている様に俺達の同柄事は甚だ浅薄なものである。——但し、これはジャバ以外の予科生に於いてである——

我々の毎日学校へ出て放課後二時間か三時間苦しい練習をして互に激励し合ひ、ジャバの上で研究とする。これは部生間の最も貴い所である。予科生勿論であるが、且初後、風呂へ入る。雑誌等の中へ電車に歸つて明朝迄顔と合ふ。翌日又の生活と判じ下は如何に繰返している。

練習に總力を捧げざる、それ自身はもとより、当然であるが、単にジャバの上で於ける態度のみでは、私立大学でやっているに等しい。或いは、弱く強烈な練習に於けるかともいふ。然し我々は、それジャバのみの練習だけでは不十分だとして、いかに練習を貫いて我々の心を知らぬか、それだけで人間の心が合ふのか。

こんな事を言ふのは、後々おぼしめると、どんな事をするか、自分もわかってゐる。——と今現在の自分はそう思っている。

予科生としての我々の五人の姿を今見れば、或いは表面上は結構な感じもあると見られるかも知れないが、

今の自分から見れば、若人若人バラバラな方向に向つてゆきつゝあるやうに見える。

過去一年間予科二として我々の生活と振返

つみりと、一併 あそこのい何と得たのか。
僕は この一月から この事から迷い出し、現在陶迷に
ある。意思弱き者と笑ふ者は笑へ、免れなく、今迄の
予への空気のみでは自分も生きておかれぬ事だ。
即ち存も云つてゐる程に 我々の態度が 餘りに楽天的で
あり、悪く云へば お目出たくあつた人では無い。
勿論 捕房戦当時の 團結と云ふものでは無い。
あの時の 我々の 気持からは 無限の 賞といふ得た
それを除いての 話と見做す。
我々の予への 空気が 予科三世三跡の 豫科部員
に 映つたか はずかあるか？
九月以来の 予科の 表面的な 方針の 文藝性。六月が
たつた 迄に 進んで 来たか？
同様の 場合と 考へて 見れば。 同様に 我々の 打明けたら
かつた 理由は。 物一つと して 当時の 予科の 空気を 考へ
て 見れば 自ら 命を 思ふ。
我々の 同様に 相撲せいの 程に 資格は かつたか
と 思ふ。
この 予の 因には 自分も 後暗い 秘蔵を 持つて 来たか。
これを 後には 知る 人々 打明けたら である。
単に 蹴球の 以上の 相撲のみ には。 それ以外 の予
の 互の 心の 觸れ 合ひが あつたか。
我々が 今迄の 程に 気持が かつた 裏には 自分も
何を 言ふ 必要は 無い。 我々が 今迄の 進んた。

後の 互の 感情 思想が 行方 註文 時の 一部は
どう なる だろう。 樂々と 暮れ ゆく 者は。 一度 強烈
な 困難 障害 がある。 亦つた 折れ はない。
苦しみ 苦しみ 考へ 考へ 續けた、 底力 が あつて こそ。 それを
敢然と 果し 越えて ゆく 事が 出来る であらう。
かう 考へ 見れば 予への 我々の 欠けた ものは。
もっと 裏づけ せられた 底力 がある 強さ ではない だろうか。
その 考へは 學問 素の 必要 である。 それと共に 心底 から
の 親友 交友 が 必要 だと思ふ。
四月に 来た からの 練習の 二年 生の 出欠 の 悪さ の こと。
今迄 云つた 予から も 物一つ が 出て いる のは ない。
この 書く 自分 こそ 全く 後悔 の 念 自責 の 念 附け
ず の こと である、 この 予の 状態 には 予への
予科 部員 を 引張る 中々 こと は 出来 ない。
また 何と かい よう ではない かと。
(佐藤)

書く 資格 も 亦の にも 暴言 吐いて 禮を 失した。
い。 書く 予が 總て 無 である ならば 是れ
事 である。
これ 予を 書か せよ と。 況ん 今迄 の 部 の 明朗性
が悪く 言ふ こと は 快 である。
明朗性 は 勿論 大切 である。

4月13日 (水晴) ground 軟弱

- 1. 作操
- 2. running
- 3. ドリル 2回
- 4. short-kick
- 5. long kick
- 6. running pass
- 7. shooting
- 8. back-kick
- 9. formation

漸く天候が定まり春らしい暖かみがある。
 かつたは軟弱の地はあるが先日来の埃は吹散して
 雲化の現象がある。

宿命のリーグ戦と同日に接し、士気は揚げてあるが
 (たゞ) 疲弊が去り来り根柢。思ひ溜息の人の泣く
 努力ぶりには我々の如く悲し、唯何物も忘るゝ気持
 はない。

- 運動の理想は必要ない。(たゞは運動場の場合の如く)
 二小は溜息の如く候の屋に消え下りてゐるが。—
 小一に目を向く見とれは kick せんとする瞬間の支持
 金とれは我々の境ふらぬ。無念無想の善一瞬間に
 あり。後は渾身戦ひ勝負にとき始め sportsman
 の心理を身以て作戦にあらはす。

その苦悶の身を思ふせば、今更なる時は堪へぬと唯
 思ひ計思ひ計らぬ。林に向ひて泣くは唯一人の
 哀。此の哀の時の感涙は至上の哀の如く。それは
 理想を失ふ、他人の与らぬもの。白ひの命の
 出は、金力に似ぬ。此の果敢の戦ひは
 感涙の如くからぬ。

後日理法と上り向ひの苦しみ進んで得た二感
 得る sportsman の志と愛の如くある。又敵の如く
 努力するは我々の如く。今更なるは我々の
 敵は我々の如く。我々の如く。我々の如く。
 却るが如く。我々の如く。我々の如く。
 我々の如く。我々の如く。我々の如く。

(床日記)

4月14日 (水) 晴

- 1. ヨートキック
 - 2. ロングキック
 - 3. フォーメーション
- 本日予科全校修練日の為、五時に練習した。

部生活の再検討の問題と云つてある。それ僕自身の信念を
 底の底から擡がらねば。僕も部生活を愛かんとして仕舞はしは實際の
 理想は、自分の血をこぼすにふつたあつた。是の如く。ついで果敢
 愛の如くはふつた。それの如く。僕他人の宗教の如く。
 従来と最も信奉して仕舞はし。今更なる。それの如く。理法
 に我々の如くはふつた。要する。それの如く。宗教の如く。それの如く
 以外の如くはふつた。我々の如く。我々の如く。我々の如く。
 思ひ計思ひ計らぬ。我々の如く。我々の如く。我々の如く。
 我々の如く。我々の如く。我々の如く。我々の如く。我々の如く。
 我々の如く。我々の如く。我々の如く。我々の如く。我々の如く。
 我々の如く。我々の如く。我々の如く。我々の如く。我々の如く。

。これ一紙の撰文が読後体。その下人生の迷ひに生きたかうに
この貴族の生身を首に斬。それには是非は此の世に有りおたす
(礼記)

4月15日(木) 曇り 雨

1. 佐藤
2. 9月24日
3. 山田
4. 山田
5. 山田
6. 山田
7. 山田
8. 山田
9. 山田

感想あり。書きたくあり。(礼記)

永倉の代りに僕が書く。今に至つても俺には此の予科
に缺けてゐるものゝわからない。何の不足がある。しかしわ
からない。昨日 瀬藤 さんに 途中のりではあるが 割
戒を受けて、又今朝 竹山 さんの年紙を見て、對
俺達の責任が重大な事ゝわかつた。自分に全
然無策な事ゝいよゝ情ななり。一々一思ひ
部を止めたら 気持ち良いたらと思はれる。しかしそんな
事ゝ出来ぬ事は 明白だ。とにかく考へなくちやならない。
何の何たかわからなくても、とにかくアがいてみよう。
佐藤と永倉の記を見れば、要するに 予科部員の心
の接觸が 無いといふことだ。又 竹山の年紙
を見ると 予の真が 確かに 一部を成してゐる。又 拙
者に取りつては 其れぞれに 他の原因を持つてゐ
るかも知れないが、それらの原因は 部員同志の 眞の
和さゝあれば 大程は 解決出来たのではないかと思
ふ。予の一つの原因が わかつたら、何時迄も 抽象

論や 懺悔文を 読つてゐるから、早速 其れに 對
する 具體的の 解決案を 考へやうやないか。

しかし 其の 缺陥と云つても、それは 餘りに まとめられ
過ぎた原因だ。何の予の 根本的の 原因を 考へ
てもいい(つまり ありはしたくないか)。俺は これを 考
へて 見て 四つを 考へつた。一つは 學問的の
フンク氣の 缺陥である。殊に 予に 此は 顯
著である。予科部員は 各個人で 仲間を 勉強
して いるものゝ 多い。種々の 本を 讀了して いる
ものゝ 多い。しかし 予の 何等 思想的の ものに 對つて 其
の 人自身を 益して いる 事ゝある。單に 知識を
頭に 止めて いるに 過ぎる。従つて 眞に 自己の
肉と 成つて いるものゝ 少ない。予の 人柄と 他との 接觸
に 表れる 事ゝある。部の中に 予の フンク氣を 起す
べく、部員同志の 話題と する 事ゝある。これは 此の
僕も 予の 性質を 最も 缺いた 者であるから、予の や
る 話題に 觸れる ことゝ(或は 予の やる 話題が
他の 部員同志の 間には ありはしたくないかも知れない) 自ら 無
かつた。せいゝ 僕が 聞かされた 書評位である。
従つて 本當に 心から 拙者といふことを、部員同
志で 話さるゝ 眞實の 氣分を 起さるゝ。眞
實の 氣分と云へば、單に グラントの上で 限られて
ゐる。グラントの上で 眞實の 氣分と云つても
他とは 異なる、全く 理屈無しである。其の 時間

を過ぎて暇となつた時に必然的に心は勉強の
方へ向く。しかし部内の空気がそれに向つたために、
又体の疲労も加はつて、自然と勉強を怠る。
しかしそれで我々の勉強に対する要求が世になら
わりではない。レスン・オフとの傷病に依り練習
の休みとかなれば、常にそれと一緒に来て、勉強
に要する時間を奪ふ。ところが練習を嫌む
他の部員の練習後の雑談も不愉快さが増
すばかりである。それなのにそれを打明ける人も居な
いから必ず部を止める事になる。もと予科部員
は本を読む、そして本の読み方を変へやうとやる
が。又レスン・オフ等には其等を中心として会を
催す事も良い。長瀬、玄の頃には麻雀をや
つて部員の親交を計つたと云ふ。我々の年代と云
つては語弊があるが、解決のための一方法として
讀書会・座談会等を通じて予科の思想性を
増し、親交を計つるのも良いと思ふ。
オニは意志の弱さである。俺達の練習は確
かに辛い。練習が終れば相当ぐつた状態の事
は事実だ。そして此の苦さを逃れたい、練習
に出たくない。此のいつた気持が各人の心の中
に働いて、意識的に部から遠ざかろうとする。
部員との接觸を可成く避けやうとする。
或いは、此の練習を今迄続けて来た俺

達が今更 二人な理由で部から遠ざかろうとする
事は無いと思ふかも知れないが、しかしこれは残
念下ら、俺に取つても、又恐らく他の部員に取つ
ては事實だ。そして此の意志の弱さを匡正する
のが練習の最も重要な目的の一つである以上、
何よりも先づ先に克服しなければ、殊更に苦しい
練習を行ふ意味が無くならない。その簡
単に直せようとする今迄二人な苦しみはしる
てすむまいとおもう。今更問題とて必要
はないかも知れないが、もし退部したい者が
此のやうな心の迷ひからその決心を抱いて
おこなう、此の事を良く考へて部生活に流
れて欲しい。我々も自分を今更迷ひの中
に投げ入れやうとしないやうに、特に注意
しなければならぬ問題である。

オニは時局の問題である。

我々の鍛練に依り同様に立てた心身
をついておいて、現在行つてゐる練習の
慣習は全く切迫した時局の要求に反
対することが多い。たゞその要求のどの
局者の近視眼的な計畫であつても、我々
学生は可成く其の底を成して、時局の
流れに着目し、其の真の趣旨に副
やうに行動すべきではなからう。そして

の方面に於ける眞剣な行動も又部生活の
重要な一面を成すと自分は思つた。今迄の
部生活とは單にサッカーの練習と其れに附
随する日常生活の探究といふものがあつた
けれども、これからの部生活は其のやうな自己中
心的な、社会の流れに對する外的なものに
許されぬ。又其の流れに眞に順應するといふ
依つて本當に部生活の求むるものを得られな
らなかつた。自分は今迄に小さな事ではあつたが、
学校の行事との向つ相違の起る度に
其のやうな感情を抱いてゐた。自分は、悪い
向違つた考へに胸の中を殺して来た。しかし
今考へて見れば他の人の中にも此のやうな
考へるものがある。一考へる要があると思ふ。
才曰は利己心である。

部生活を行つて行く以上、利己的の行爲は
当然排撃せらるべきである。それが部員
全体の心の中に確かに存在して、部へ對
する絶倫的の自己犠牲といふものが出来
ない状態である。その犠牲といふのは結局
は自己の爲に成つてゐる。理論的には
さう考へてゐても、凡夫の悲しさ、いさ自分は
都合の悪いことに成ると、悪いと意識するものも
避けてしまつてゐる。従つて本當に部員相互に

信頼が無い。相互間に信頼の念のない
親友などはない。部員の心も互に離れる
原因である。此れの問題はグランドの上には
見えぬのである。

以上四つを挙げてみたが、數へて見れば其の他
にもあつたやうに考へられ、又無いやうにも思はれ
る。又此等は原因であると同時に結果でもあり、
完全な部としての條件は他の方面にあつて、
此の四つは其の結果として自然消滅するもので
あつたと思はれる。しかし以上四つが部の
團結の妨げに幾分はなつてゐると思はれる。
それで書籍を見て見ると、自分として
は未だ漠然としてゐる。何か不安定なところ
がある。又既に退部を決意して
ゐる人には此等を全く遅延して
後で言ふことも知れぬ。其の人達に對して
は自分は全く無策である。何等引續止め
るの言葉は自分不安定な心から出て来る。
自分の考へる不安定なために他人と説き
と對して自分から出て来る。新しい一年生を
さへ入部を勧誘勧誘して来る自分
である。(カトウ)

俺達予科三が今迄部生活に對して極み
を抱かぬのは樂天的な氣持はとにかつた右の
自分でもいふべきである。

四月十六日(金) 晴

1. 体操
2. ランニング
3. トリプル
4. 一ノキック
5. stonks and pass
6. 予てのキック
7. ランパス
8. バックの蹴り合い
9. フォーメーション
10. ランニング

明日に迎える対明大練習試合に全力
を投入すること誓ふ。(カキ)

以下 佐藤記す

我々の予科部員は重大な時機に際會したる。
これ程混然した状態の種と蔭ながら、この境にはありか
思ふに、今一ノ戦に熱中する予科予科の人達に対して
誠に申し訳がた。

然し、予科に至る現況では後に後言と述べた時を過す
べしと知る。今から予科再建に実行すべきは
ある。如許の専任種の原因今も真実あり、

我々は、唯一人強きと考へてやむべしと考へたこと
ある。これに反省は自分にはとてはかたくな。
自分も何か模範といたす。これに皆が部員に書きたり
會はるに合ふる中に明瞭なる。

竹山の独心考へた。部員も合ふるに
気持は、この自分にはよくある、今も過る位合ふ
ると思ふ。

要するに竹山は、この部生員の目標を失つては
ない

かすや。又 我々上級生、持て予科に信頼を置かふこと
に思ふ。一時の情熱を以て 蹴球の飛ぶことには。
心すや。熱が冷れた時かくる。この時我々の心は温かく
やるのは同僚の温い心からの友情である。
竹山は、松岡には、部員に対する熱意、愛着の情が
我々の予科にこそ 語ることができると。竹山を温く救
なすや。

自分は、危うく、狭い意味での学生生活の痛、
それと踏みつけてを迫る。商大入学入来、この学校
の要一面、持て予科の缺點あり。遠くで心は
自惚たり。実行はともすれば専任の意に
我々、この超時局下の學徒として心苦しい予科
の教之感は

我々の同心年配の青年が、眞珠塔の
振るはるの振るはる行動をとる見たり
自分の至らぬ予科に愧ぢ入る次第あり、

我々の活躍の舞台は、目前の
我々の躍進は、目前の
我々の躍進は、目前の
我々の躍進は、目前の
我々の躍進は、目前の

我々は明日に望むに
この時を以て、安心して、災難に
対抗し、それと

四月二十日 (火) 快晴

今日は予科生及本二カ立川、口カ^飛行機、昆学
のため練習を休んだ。予台も近く控えてかや3本
車は初めてのことである。これは前に加藤の云った
戦時局的行事と練習との関係の解決即ち我々
蹴球部が真に大戦下の学生団作としての本質として
大々的な意義を持つてゐる。我々も将来戦局下
の学生として真に意義ある存在は以てん参加する事
ならず。正しく参加した以上はその意義を正しく認識
し全校の模範たる行動をとらねばならぬ。

四月二十一日 (水) 快晴

- 1. 体操
- 2. Ground-一周
- 3. Dribble (2回+1回)
- 4. Short-Kick
- 5. Long-Kick
- 6. 2対3. (2回) 球の者
- Running-Pass 3回
- 7. Shooting
- 8. Back, 蹴球
- 9. Clearing
- 10. Formation
- 11. Ground-一周
- 12. 果垂 (各自7回)

本日瀬藤主将より、リーグ戦が又部省よりの連日により、撃た不能
にふつた旨、話しがあった。我々が今迄目標としてゐたのが、矢は小の
あつた、力か一時に拍子を感じた。併し我々は奮つて自己の押し
寄せる時局の波に巻き込まれぬ。我々は、単に優勝のリーグ戦といふ考へは
してゐてはあらず。其の代りに、口カといふものが、向うの存在を以て大
いに働かせるのである。我々は此處に新しい部生活のあり方を創造して

かねはあらず。我々の心にも単に我々の目的の達成のみならず、
今迄築き上げてきた素地を元として、この部生活を築くべきと思ふ。
従つて練習の一つ一つが、即試合の準備である。此の意を我々は
に考へなければあらず。我々又従つて豫科蹴球部の在り方として
稍々我々の「豫科」は、単にミドルに過ぎないから、果念もあつた
はあつた。此の際我々は又これに豫科を強調しよう。豫科としての
一つの意欲を持つておらねばあらず。濃く生き抜いてゆくには、それ以
上の深い意欲と愛護が必要である。
我々の今後の在り方は我々自身で創造してゆかねばあらず。

四月二十二日 (木) 快晴

- 1. 体操
- 2. Ground-一周
- 3. Dribble (2回+1回)
- 4. Short-Kick
- 5. Long-Kick
- 6. ~~2対3~~ Running-Pass (2回)
- 7. Shooting
- 8. Backs, 蹴球
- 9. Clearing
- 10. Formation
- 11. Ground-一周
- 12. 欽木果垂 (7回)

本日鍛錬部並に文化部の改組の總會ありたり。
我々は、我々の部が持つべき姿を以て我々の部には不心得
甚しい。我々には、今後の究大責任を肩担するべき
務のあるのである。今迄部生活を生活して来た三、四の部
令を廃止せよの当り、その人達の心を測り、無心であらう。
我々の心の中は、その人達の心が入つて飛り、その人達の心は我々の
心に入つて飛る確信を得た。我々は、その人達の尊厳を
石を生かして、それと土質として高い堅固な鍛錬部を作つ

変らぬ正しい精神でありと思ふ。この精神を心の底から体得し味得して
行かうじやないか。眞にその中に没入し切らないて。徒に門口の所で
狐疑逡巡する態度は止む。

俺達予 = はもつと固結しなくてはならなかつた。今迄は何の深い交渉の
ない。いはい。烏合の衆と云つても過言でな。却な向柄だつた。

お互に一つの目標に向つて努力する時には心の底から融合が無ければ
ならぬ筈だ。その裏が殆んど缺けてゐたのは、我々の生活態度が如何に
甘いものであつたかを如実に表すものである。俺達予 = が一致固結した
纏りを見せた時が果してあつたらうか。岡本の問題も皆俺達の足らな
過ぎた裏から生ずる。俺達は個人個人として生活して居た。その間に
緊密な^{連繫}は少しも見られなかつた。商大蹴球部も云ふ渾然たる
統一体の中にあつても各學年間に特徴や纏りがあつて当然である。

寧ろさうなくてはならぬ下。去年の秋の浦高戦の時予科全員の
心が一致した。然しあの時は今の予三が指導を取り我々はそれに
随つて行きたへすれば良かった。随つて行くことは割合に容易である。

然し今度はそれだけでは済まされぬ。予科の核心となつて動き
やがては引つ張つて行かねばならぬ。俺達にそんな力があるのかさへも。
疑はれぬ今の状態ではなにか。

自分は今まであまりに自己のことはかり考へ続けて来た。練習中に
兎角自分の弱さが出て堪へ切れぬ様な心になつた事が常である。
どうかして此の弱さを克服して行きた。然し自分には一体どんな力か
あるのだろうか疑はしい。こんな事を考へると益々自分の弱さがはつきり現れて
非常に恥しい。弱さも構はずさらけ出すのが練習だとは云ふけれど
やはり弱い心に引ずられ勝ちになつてしまふ。始終氣にかゝつてゐるのは

自分のことばかりで。そこには他の者を考へる余裕がなかつた。自分が
この訓練に堪へる爲に精一杯だつた。外の事を考へると練習に負けて
しまひさうな氣がするのであつた。時には精神が居眠りし練習が日課の
如くになつて。何の爲に蹴球をやつてゐるのか。と氣づいて驚いたり。
別の方面へ趨かうかと想つたり。自分の心を扱ふのに怯弱されてゐた。
こんな事のために予三の没交渉があつた。然し今頃になつてやつと
氣付いたと思つてゐる事は。自己を補充することは勿論必要だが
他との連繫なしにはやつて行けぬと云ふ事である。こんな事を知らずが
一年間もかゝつてしまつた。併し而も全員の心の一致を信條とする
蹴球部の中に於ていゝある。如何にもボンクラだとは云はれようか。
仕方ない。ボンクラの所をそのまゝグラウンドに現すより外の術はない。
明日は明治との試合だ。勝つとも負けるとも考へない。只自分の
プレイのあらゆる力を盡して味方に少しでも有利にした。
此の前の対文理大戦の時の醜態を再び現す様な事はしたくない。

リーグ戦は名前はなかつたが。実際上は殆んど変らずに行はれる
事になつた。明日の対拓大は拓大の蹴球部がなかつたので
明大と練習試合を行ふ。我々の努力を現すべきリーグ戦は殆ど
之の通りである。一部の相手を敗れなくて二部優勝は望めないと
誰かが云つたが。その通りだ。明日は我々の実力をためす試金石
ではなからうか。全力を奮つて行かう。

(高柳)

四月二十五日(日) 対明大戦 於八幡山。

商大 4 { 1 - 3 } 3 明大.
 { 3 - 0 }

商大メンバー

G.K 加藤

FB { 太田
 鷺野

HB { 松浦
 川端
 高柳

FW { 奥村
 安田
 土屋
 瀬藤
 永倉

明治をやつた。我々の実力はその真価を發揮した。今迄の
努力が実を結んだと云つても良からう。然し戦はこれからだ。更に
花を咲かせる迄は油断も隙もなからう。

前半凡下にて於て最初に奇襲に一実先取したのは不断の練習
努力の結果であると思ふ。併しその後銜けざまに一すした
ゆりみから三実も取られたのは俺達の何時もの缺陷である
此の實こそ大いに是正する様努力したい。バックも注意を
特にする必要があると考ふ。

後半凡上にあるや我方有利に戦つて下.W よく動き
三実を奪つて勝利は我々のものとなつた。

試合が有利に展開にある時は必ず全員の心が一致に
居る時である。そこに少しの隙も無い。然し一寸した心のゆりみ。
それが一人であつても勿ち全体の調和を破つて ~~改~~ 改め直され
苦戦に陥つてしまふ。此の事をしてしみじみ体験した。
試合は心と心の戦である。商大蹴球部全体が明大
蹴球部全体に勝つたのだ。此の事は我々の前途洋々たる
祝福するものではなからうか

(高柳)

四月二十七日(火) 晴

1. 体操
2. グランド一周
3. dribble 三回
4. short kick
5. long kick
6. running pass 二回
7. ホットでの kick
8. 蹴合
9. dash
10. ground 一回
11. 懸垂 (7回)

予科三は勤務奉仕。土屋さんは徴兵検査。安田さん荒川
さんは病気で缺席し、さぶるさびしい練習だつた。

長らく部誌から遠ざかり、まだしはく書かずにいるやうと思つた
が予三はるないし、高柳からおしつけられるやうにして書く事に
した。

予三の諸兄は僕に對する非難をば、毛頭念頭におかず、先づ
部を解ボウし、それから自己反省に行き、皆痛烈に自己を非難

しておられる。予三の諸兄がこういう態度をとる時、我々予三は
どうすればいいんだらう。特に俺はどうすればいいんだ！
只「済みません」の一語に盡きる。

此機会に僕の部生活の経過を述べやう。クラスチャンが終
つて蹴球部に戻つて十日足らずの頃だつた。我々の大先輩
松本正雄氏が寮に於て一場の講演をされたがその中に
「予科の沈滞を救ふには、予科生は勉強か運動かどつちかに
徹底すればいいんだ」との言葉があつた。確固たる信念をもつて
入部したので僕にその徹底といふ言葉は如何に重圧を
もつてのしかつた事だらう。それに他の上級生から「我々は学生
たる以上勉強するのだ。運動は従だよ」と聞かされた矢先で
ある。その晩部屋長とこれについて話してると兩隣の部屋長
も来て、三人で盛にメタフィジカルな言葉を使って話したが、結
局僕には、各自の生活の誇示乃至は辯護、そして勉強が主だとい
ふほめがし、としかとれなかつた。僕は彼等も言ったやうに
「自分の問題の自主的解決」をすべく、練習に出たが、すぐ淋巴
線の手術で入院し、結局一学期の間の部生活は猛練習に幻
惑されたのみで、自己内部的なものには nothing だつた。
一期の試験をノートにして、やつと終り、二期こそは覺悟を新たに
して合宿に臨んだが、足の故障で妨げられた。足の故障が
なほると馬鹿に身体の調子がよく、部はその時実力不足を熟知
してゐながら玉砕の意氣^{ツツ}予科に臨んでゐるので、張切つて
練習が出来た。

同時に部生活に対する信念も徐々に形成され「蹴球部

生活は強くなる事だ。自己の内心の誘惑をはね返す強さ、男らし
くない行爲を斥ける強さ、他人の不正と決して妥協しない強さだ。
我々の人格練磨の目標が圓滿を最高としてゐるならば、その
課程として闘争の時代、即ち男らしい強さを要する時代を必ず
経ねければならぬ。この闘争に克つぬかすは「圓滿の境地」
には達せられない。達したやうな顔をしてゐる奴はカムフラージの
うまい妥協者に過ぎぬんだ。俺達はその強さを得るんだ。
文化部の奴も論理的究明で思想を確固たらしめ強くなるか
も知れぬ。或はその方が深味のある強さかも知れぬが
何といつたか、こつちは体で汗で得た強さだ。こつちの方が根ざし
方も強つて、きつと遠かに逞しいに違ひない。強くなれ」
といふ、^考漠然とから確かにもつて練習した。それですら、あつ
た練習振りだつたから嘲笑するより外はない。或時は自分の
弱さに發想をつかし、又ソクラテスの言つたやうに、「自分の弱さを知
つてゐるだけ強くはつかも知れぬ」と自己慰安をしたりした。
話にはならない程弱い自分を一年間引きずつて来たのは全く上級
生の自分と對蹠的な逞しい強さであると思つてゐる。
さて、只勉強と運動は充分両立する、又さうでなくちゃ唯だとい
ふ考を抱いてゐるから僕は寮で少しもとは云はなかつた。勉強
しなかつた。シーズンオフもボートも通じた。内心の苛責には
「運動でそれだけのものはまあ……」で、ごまかし、太々しくも、
一年位遊んでいゝぢやか、「若い僕等の命の春よ」と歌々にもある。
遊んでしまへといふ気も^も底^もわれはあつた。いや嚴存してゐた。
二期の試験も終り、残療の問題になると、僕は幾多の缺陷を
(終生忘れない感激を與へてくれた浦高戦も榮ある勝利をもつて
幕を閉ぢる)

持つてゐるながらも、充分それを補ふだけの価値をもつてゐる寮といふ~~生~~逆い生活地盤を離れたくなかつたし、部屋長も「君は下宿したら孤独だらう」と同情的立場をとつてくれたが、自分も勉強を考へる時、どうしても残寮願はせず、下宿に勉強を今年こそやるぞと誓つて飛び出した。「僕のやうな何の取柄もない奴がもし残さぬらうどうなるんだ、自分が或意味で軽蔑さへしたやうな変な部屋長になるはかりぢやないか、馬鹿野郎しつかりしろ、今年こそはしつかりするんだぞ、そして勉強するんだぞ」と心の中で叫びながら。

つまりなにかでかうかう長くつたから以下簡単に書かう。辯解めいた事^{以下}長く書くのは無用だ、それに自分が未だ確固とした断言し得る決心も持つてゐないから。

僕の目指す^は鍛錬と學問の両立である。家の事情からも學の方への偏は出来るが、運動に偏する事は出来ぬ。しかしお前一年間両立が出来たか？ お前の性格は運動部生活に適すると思ふか？

弱いお前がいつて行けるか？ 等の煩悶を春の合宿をやりながら考へやうと思つたが家の用事で退歸つた。馬鹿馬鹿家事上の煩悩に悩まされ、早く部生活に歸りたいと言ふ手紙も出したが着京の翌日岡本に會ひ、一年の部生活で一番親しくしてゐた彼から顛末を聞き、考へさせられた。そして竹山がやめると言ふ言を聞いた時「しまった」と思つた。「お前こそまず先に止めるべきではなかつたか、フラフラした気持でフラフラ練習してフラフラ引きづらぬて行つてどうする積りだ、新入生が大勢ゐるぢやないか 予三はすぐ本料ぢやないか、こ

いふ部にとつて最も大事な時に止めるつて裏切行爲に等しいが、しかし止めるのは今だ、新入生入つてからぢや部にはほ悪い」こゝ考へると又変なものでやめる理由がいくつでも出て来た。予三の反省してあげたやうな部の欠点が重なるものであつた。それに両立の問題は勿論、性格の問題が大いに退部の決心を固めさせた。裏切的行爲の恥を忍んで、決心をして蹴球部の人に會ふ川原序で退部の決心を打明けた。「予三に話さぬかつたのは予三を信頼してなかつた」と考へて飛んでもない誤解である。

以下はなほ簡単に書かう。要するに、第一は両立を不可能と暗黙裡に認められた形になつてゐるか、果して切迫した感情で勇猛心を振つて、両立は自分か努力した事があるか？ あつたと思つてゐるが、深く考へて見ると決してなかつた。第二に部の上級生に會つて言はずと済まない感じが先で「何を俺の生活のこゝろいふ重大問題に對してツベコバ言ふんだらう」といふ反感が少しも起らなかつた。それだけ自分の悩みは微温的で切迫してゐなかつたのである。「これで安易な誘惑に陥らぬと言へるか？ エイ、又フラフラして来た、退部していくらゝ無理なない、今の中に飛込め、」二人は氣持で飛込人だのである。

快く自分を包容してくれた部員諸兄に感謝すると同時に、勇猛心をもつて生活に精進し予三として部の責務を果す事をもつてお詫びとします。

自分決して決して安易な生活を求めてはゐない。部員諸兄よ、俺を取柄のある人間にしてくれ。

(松岡 記)

4月28日 小田原

1. 体操 ground-周
2. dribble
4. short-kick
5. long-kick
6. running pass
7. bold, shooting
8. back's kick
9. dash
10. ground-周 懸垂

予材料、勤労界士のみの10日と同様、夢の下の人数の多いか、
一回大に決める。groundは道、園、irregular、ハト
にシマウ。

この五人は甲種合格。 北は角おめじの。
喜久はのどを痛めたか。 御大七に。
安田、茶正は四郎。 皆五人御用心。

又、この練習は皆を怒鳴る合の如く、
この一年生が入りて来る。 彼も新入生と同じ気持ち
で、私の指導の面白さを、
要するに、
自給の一番平気な、
自分の高ぶりを、
原級練習は、

此處にこの五人の甲種合格者が認められた。

(ト二)

4月29日(木)晴

2. 体操
3. ground-周
3. Dribbling
4. short-kick
5. Long-kick
6. Running-pass
7. shooting
9. Back's Kick
10. Sliding-tackle
11. Formation
12. 果垂

三日後に控えた試合を前にして練習を再開。 昨日の動き得るエピソード
が、
遠慮の気も、
比、
なから

4月30日(金) 快晴

1. 体操
2. ground-周
3. Dash
4. Dribble
5. short-kick
6. Long-kick
7. Running-pass
8. shooting
9. Back's Kick
10. Sliding-tackle
11. Formation
12. Dash
13. 果垂

都生活は、
俺は4月22日、
ふり、
軍、
これ

(永倉記)

5月10日(土) 凡強シ

1. 1/4 kick
2. running
3. drivable
4. short kick
5. long kick
6. run. pass.
7. schooling
8. backの試合
9. Polving tackle.
10. Formation.

北方の暴風 砂塵を捲き上げる。
 対法政戦は明日の午へて 軽快練習とあがらる。
 愈々オ一戦也。
 どうかいつかやるといふ。
 一試合は試合と先より対するはの論戦といふ
 らうが。その後。一試合やるみる。敵に数点と許
 らうが。近來の戦の弱點ある。
 この所は 緩めず。うんて頑張るべし。
 (右巻)

5月2日(日) 晴

対法政戦(リーグ戦オ一戦) 於 高大予科グラウンド

高大 7 | 4-0 | 法政
 | 3-0 |

高大メンバー

GK 加藤

F.B. 太田
 鷲野

H.B. 松浦
 川端
 高柳

F.W. 奥村
 宇田
 土屋
 瀬藤
 永倉

(前年)

キックオフ後 高大 雑踏し押エれるも 盛り返しえつ
 松浦ロングキックにて 一試合先取、其後三点を入れる。
 (前半)キックオフ向もなく 敵の F.B. の反則に依り判定得
 点を得。又 ~~一試合先取~~。其後一試合入れる。この辺りから
 高大少しだれ気味であったので 押エれた。然し
 法政全く闘志を失ひ 後半の終又一試合を加へて
 完勝した。

リーグ戦オ一戦幸にして 大量得点を挙げて 勝つ事が出
 来たが 元來試合と云ふやば 勝つ出方と 調子がある
 もので 右から 点が入ると 着て 安心する事は出来
 ない。殊に悪いのは 法政は二部の強豪と稱し
 ぬる 其れを破つたから 後は 怖い方らうと 考へる事
 合度の試合の勝つたのは 全員が一戦協力して 刺つ
 たけのファイトを出し 中みなく 戦つたからである。
 我々が一試合 中みなく 見せたが 最後 何んは弱
 い 敵にエへも 敗地を喫せぬは ならぬ事は 必定。
 農大を以て 工大を以て 専修を以て リーグ戦となれば 死
 物狂いで やつて来るのだ。去年のやうに オ一戦に完勝
 したか 去年の軽敵を 踏んたら 大変である。滑りお
 しのよい時は 非常に危険である。部員に少しも
~~悔み~~ 敵をおなごる心があつて 其れが 此れ
 からの練習に あらはれたら その結果は 實に 恐る
 べきものであらう。我々は 何れ 近も 心を 緩めず

一戦一戦を ~~戦~~ 又取の練習を飽く迄勝ち抜いて行かねばならない。

(奥村)

5月3日(月) 晴 練習休み

本科学生は鍛錬部の銃剣術訓練に参加、予科ニは勤労奉仕の鳥学校に来たので予科大が集った試合の批評をした。帰途小沢屋に立ち寄った。

(奥村)

5月4日(火) 晴 練習休み

予科生全校修練の爲練習休み。練習のなかに確かに体の調子が良くない。川端の説明に依りて汗を流さない爲に体内に毒素が溜り出し、~~悪~~或は其の通りかもし知らぬが、今迄の緊張が溜り、一時に疲労が出たためらしい。

新入生が16人も居るとの事、それも大部分が希望者とは頼もしい。

(カトウ)

5月5日(水) 晴・風烈し

今日は愈々、新入生歓迎会だ。俺はたった、一月か二月の短い期間ではあつたが予科の部員としての苦悩を体験し、何等の満足なる結末を得られなかつた。それ今はその混乱の中で張切つてはゐるが、~~術~~という術

も無く、少しだけ気味な兵も表はれてゐる。此の時に新鮮な若さの一年生を迎へて、何の新しく再出発おとの感が深い。皆その元気で思ふ存分に部室生活を擴張して貰いたい。

(カトウ)

5月6日(木) 晴 暑気烈し

久し振りの練習で気持ちよく伸びた。一年生も少々の元気にやつてゐた。ガフニ等は仲々速い。皆誘ひあはせて出席おやり。愈々夏にちたとの印象を深くした。

(カトウ)

5月7日(金) 晴

1. 体操
2. ground 一周
3. dribble 2回
4. short kick
5. long kick
6. running pass
7. heading 競合
8. shooting
9. back 蹴合
10. formation
11. ground 一周
12. 懸垂

グラウンドは堅く、而も猛烈に埃が立つ様になつて来た。少し迄の雨では何ともならぬ。烈日の下練習は之から益々苦しくなつて行くのである。昨日よりは大介樂になつた、と女子のは変だが、昨日よりも続く様になつた。何れも三日も休んだら少しは苦しいのも

当然である。早く之を乗越えなくおやならぬ。

一年生が入って来ると非常に心強^い感があると同時に。
負けてはならぬと云ふ気持がある。予ニが少くても何と云つても
我々は予科の中核なのだ。(つかり) 又つて行かす

(高柳)

5月8日 日曜日

予ニが予科外教練の中心。本格的な練習行はす。

此一年生の進め方については頼む。

本来は予科の都合に依る。

1. 作操.
2. running (ground = 田).
3. drills.
4. short kicks.
5. long kicks.
6. Gold's kicks.
7. heading.
8. shooting.

新しい十数名の新人と得業に昇天の勢がある。

新しいの決意は以て start して進めたい新人を以て又
と云ふ。新人と云ふべき事は吾が却入!

よくか吾が部を躍らしたる!

芝山と諸子 後方に目前の悪漢、安易なる威嚇と云ふは

入り込む。かゝる者不幸にしてあらは^{神復}直ちに~~退却~~せよ。

蘇我の諸子入部は日浅きゆゑ右等が^吾悪意と解せしむる。

敵に余に上級生各佐列 諸山と云ふ者か部は跡付と云ふの

部員生活の場^{ground}。而して ground は神聖なる道場

小川。一際 uniform に着て ground に入る也。吾々の

練習は普通に行はす。練習するが如きもの~~なり~~なり。

吾々の内中 予科の極致は内作を極端にせよと云ふべからず。

あつたは諸子の入部は内作の如きものなり。汗かきつて

魂を吐くの内作は其の果は内作の如きものなり。光明と云ふは

その光明。一は生徒の練習を終る時其の如きは(吾々の

証書)を得ん。

諸子、吾は細き。と云ふは其の如きなり。

吾は又幾度か此の如き内作の如きものなり。内作の如きものなり

所にて又諸子と云ふ例を踏むべきなり。又確言するに思ふは

芝山と諸子。その意は(吾々の如きなり)

今一。吾々の如きなり。

諸子、一度内作を轉じて其の如きなり。

此の如きものは予科の予科の如きものなり。其の如きものなり。

其の如きものなり。予科の予科の如きものなり。其の如きものなり。

往年の学生生活は最早認めす。此の如きものなり。其の如きものなり。

予科の予科の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

此の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

予科の予科の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

諸子、よくか吾の予科の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

かくは其の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

己か其の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

予科の予科の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

諸子と云ふは其の如きものなり。其の如きものなり。其の如きものなり。

管内は断つておろしとあるが、

所記諸子。ground といふのは、
志小。汗等。取に手付せ。

風波は又二つ生れり。

又此は安易に成る。又は無い生を申す。
浪と成る。白波の浪と成る。浪なり。
(トコ)

諸子。布には一書。生す。

却て古の生活の場は、

(ト)

5月9日 沢野

- 1. running. 2. short kids 3. long kids
- 4. gold's kids, 5. shooting 6. back's kids
- 7. running-pass.

川端。此篇の教員とある。

何れ書きおろす。